

Title	『三田社会学』総目次(創刊号～第10号)
Sub Title	
Author	
Publisher	三田社会学会
Publication year	2005
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.10 (2005. ) ,p.168- 174
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20050000-0168">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20050000-0168</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『三田社会学』総目次(創刊号～第 10 号)

創刊号 1996 年

創刊の辞

三田社会学の創刊にあたって

山岸 健

特集：社会学はいま、何をなすべきか

特集に寄せて

永田えり子

現代社会についての「説明」から課題解決についての「提言」をする学問へ

清原 慶子

科学技術社会学の研究者から

松本三和夫

社会学の中心と辺境 家族社会学と教育社会学

渡辺 秀樹

情景・社会学・1996

藤田 弘夫

一社会学徒の独白

吉原 直樹

社会学はいま、何をなすべきか わたし自身の回想的・内省的な模索(戯れ)

川合 隆男

社会学者たちの声:アンケートより

論文

「閉ざされた人間」の死 ノルベルト・エリアスの「死の社会学」を題材として

澤井 敦

宗教文化の調査のためのマルチメディア環境の構築

由谷 裕哉

ライフヒストリーにおける記憶と時間

有末 賢

書評

書評：松本三和夫『船の科学技術革命と産業社会：イギリスと日本の比較社会学』

同文館、1995 年

水越 伸

書評&リプライ

書評：干川剛史「自律的公共性への構造転換に向けて—市民社会の基盤としてのメディア・ネット

ワーキングの可能性—」『社会学評論』45・3、No.179、1994 年

鈴木 智之

リプライ

干川 剛史

第 2 号 1997 年

特集 I：社会学の方法とリアリティ

特集 I「社会学の方法とリアリティ」に寄せて

鈴木 智之

「学問の制度化」の功罪

有末 賢

被災地調査の現場をふりかえって

大矢根 淳

相互行為秩序を記述してゆくことの意味

浦野 茂

二つの相互循環 社会学的認識の基本特性	吉田 民人
<b>特集Ⅱ：奥井復太郎の都市論</b>	
特集Ⅱ「奥井復太郎の都市論」に寄せて	川合 隆男
奥井都市論の形成と構成	藤田 弘夫
生活の地平と風景 奥井復太郎の景観論	山岸 健
奥井復太郎の生活研究 「都市生活構造」論の原点	原田 勝弘
奥井復太郎の都市社会調査と未完の都市研究	川合 隆男
<b>論文</b>	
P. ブルデューとA. ギデンスとに於ける「実践」と「再生産」	
両者の理論の差異と相補性を巡って	平林 豊樹
英国におけるニュー・レフトと Cultural Studies の関係についての一考察	
メディア研究としての Cultural Studies の据え直しに向けて	飯塚 浩一
<b>新著紹介</b>	
竹内治彦編著『グローバリゼーションの社会学』	竹内 治彦
大石裕他著『情報化と地域社会』	大石 裕
S. カースルズ/M. J. ミラー共著（関根政美・関根薫訳）『国際移民の時代』	関根 政美

## 第3号 1998年

<b>特集Ⅰ：社会学におけるモダンとポストモダン</b>	
特集Ⅰ「社会学におけるモダンとポストモダン」に寄せて	熊田 俊郎
社会学的モダニズム モダニゼーション論の総括のために	熊田 俊郎
政治社会学から見たモダニティ 社会運動論の展開を中心に	大石 裕
ポストコロニアルとポストモダン 文化人類学と文化研究	阿久津昌三
<b>特集Ⅱ：奥井復太郎生誕100年記念シンポジウム</b>	
特集Ⅱ「奥井復太郎生誕100年記念シンポジウム」に寄せて	藤田 弘夫
奥井都市論における内生思考 奥井都市経営論の検討に向けて	吉原 直樹
奥井復太郎の都市論 研究の出発点とその「交点」	田中 重好
奥井復太郎の生活論についての覚書	寺出 浩司
奥井復太郎の総合観と都市景観論	山岸 健
『現代大都市論』に書かれていないこと 社会史と社会学史のあいだ	熊田 俊郎
<b>書評論文/リブライ</b>	
現代道徳論の冒険 永田えり子『道徳派フェミニスト宣言』をめぐって	塩川 伸明
新しい性道徳の創造をめざして	永田えり子
<b>書評</b>	

書評：富永健一著『経済と組織の社会学理論』東京大学出版会

織田 輝哉

第 4 号 1999 年

特集 I：「自由と秩序—主体としての個人の行方—」

特集 I 「自由と秩序—主体としての個人の行方—」に寄せて

澤井 敦

「不確かな個人」 私的身体と公共空間

鈴木 智之

関係の変容と個人 分化と恋愛をめぐって

草柳 千早

リスク社会としての再帰的近代をめぐって

近代化論における個人主義的アプローチとシステム理論的アプローチ

菅野 博史

特集 II：「三田におけるマス・コミュニケーション研究の系譜と展開」

ジャーナリズム論の視点から

春原 昭彦

政治的コミュニケーション論の展開

鶴木 眞

イノベーション普及研究の展開と課題

青池 慎一

世論研究の系譜・現状・課題 政治・社会理論のフロンティア

真鍋 一史

三田におけるマス・コミュニケーション研究の意義

小川 浩一

メディア論の限界と政治コミュニケーション論

大石 裕

論文

アルフレッド・シュッツにおける<合理性>概念

シュッツ・パーソンズ論争と概念構成のための諸公準

矢田部圭介

相互行為の秩序が帰結するもの ゴフマンを手がかりにして

櫻井 龍彦

特別寄稿

Social-science oriented research on Japan in German-speaking countries

R. Mathias

書評/リプライ

書評：鈴木智之訳著『探偵小説あるいはモデルニテ』

葛山 泰央

リプライ

鈴木 智之

書評

大石裕著『政治コミュニケーション—理論と分析—』

小林 直毅

第 5 号 2000 年

特集 I：「記憶/保存/伝統」

記憶のさまざまな効用 序にかえて

荒井 芳廣

記憶のトポグラフィ

浜 日出夫

物神化する文化 文化遺産のグローバルな流通について

池田 光穂

伝統の保存とイデオロギー 南インド・ケーララ州の儀礼と政治	古賀万由里
ベンガルの女神の聖地 バングラデシュに残されたヒンドゥー聖地を中心として	外川 昌彦
<b>特集Ⅱ：「有賀喜左衛門と社会学」</b>	
シンポジウム「有賀喜左衛門と社会学」の企画にあたって	川合 隆男
有賀喜左衛門的研究法	中野 卓
有賀喜左衛門の村落研究	柿崎 京一
生活組織と全体的相互給付関係 有賀「家」理論の基礎概念	平野 敏政
戸田家族理論の特徴と問題点 有賀理論を考える手がかりとして	坂井 達朗
有賀社会学の批判的継承に向けて 学史研究の今日的意義	三浦 直子
有賀社会学を読み直す 有賀を知らない世代の一人として	中筋 直哉
歴史学－民俗学－社会学の連続線	有末 賢
シンポジウム「有賀喜左衛門と社会学」を聞いて	関根 政美
<b>論文</b>	
脳死・臓器移植問題と社会的合意	加藤 英一
<b>書評</b>	
書評：鶴木眞編著『客観報道－もう一つのジャーナリズム論』	赤尾 光史
書評：有末賢著『現代大都市の重層的構造－都市化社会における伝統と変容』	菊池 芳樹

## 第6号 2001年

**特集：「電子ネットワークと市民社会」**

特集「電子ネットワークと市民社会」	関根 政美
2000年度三田社会学会大会シンポジウム「電子ネットワークと市民社会」記録	
電子ネットワーク社会の文化戦争・オーストラリアのケース	
経済・情報・文化グローバリゼーションと高度情報化政策	関根 政美
「情報バリアフリー」の意義と市民の取り組み	
少子高齢化の進展に情報通信技術を生かすために	清原 慶子
マルチメディア・創造産業・文化構造 台湾とシンガポールの事例から	川崎 賢一
現代メディア社会におけるヘテロフォニーと間メディア性	
TVCMとネットメディアのリンクをたどって	遠藤 薫

**論文**

現代社会における「生きづらさ」と「アイデンティティ」 生き方の多様性と社会	草柳 千早
マルセル・モースの人類学に於ける《全体的社会事実》	平林 豊樹

**ビューポイント**

生命倫理政策と社会学の必要性 ルールができたあとへの眼差し	武藤 香織
-------------------------------	-------

- 奥井復太郎の鎌倉調査・再訪 大都市郊外生活と郊外研究の源流 松尾浩一郎  
G・H・ミード時間論における「創発」概念の検討 『現在の哲学』を研究する意義 岩田 裕子
- 書評/リプライ**  
書評：今枝法之著『溶解する近代』 友枝 敏雄  
リプライ 今枝 法之
- 書評**  
藤田弘夫著『奥井復太郎 都市社会学と生活論の創始者』 熊田 俊郎

第7号 2002年

- 特集：「社会学理論と他者性」** 鈴木 智之  
特集「社会学理論と他者性」によせて  
2001年度三田社会学会大会シンポジウム「社会学理論と他者性」記録  
他者の場所 ヘテロトピアとしての博物館 浜 日出夫  
構成主義と他者の問題 ルーマンのラディカル構成主義とは何か 吉澤 夏子  
他者性をめぐる学的言説の構図  
ディアスポラとグローバリゼーションの時代の新しい他者像の局面 宮坂 敬造
- 論文**  
近代日本と学校体操 その導入過程をめぐって 山本 拓司
- ビューポイント**  
マスメディアがリスク認知に与える影響 研究の意義と今後の課題 山本 明
- 書評**  
書評：アーサー・W・フランク著（鈴木智之訳）『傷ついた物語の語り手 身体・病い・倫理』 前田 泰樹

第8号 2003年

- 特集：「身体と医療の社会学」**  
特集「身体と医療の社会学」によせて 藤田 弘夫  
「意志的な死」と病理の狭間で 自殺の医療人類学 北中 淳子  
臓器提供の現在 アメリカにおける本人意思と遺族意思を中心に 田中 京子  
感染症と社会 鎌倉 光宏  
規約的であることをめぐって 森岡 崇  
「未知の分野」、されど、三田の伝統 柄澤 行雄
- 論文**

外部労働市場のライフステージ格差とその変動 企業間移動における上昇・下降移動と移動時年齢との関連	竹ノ下弘久
<b>ビューポイント</b> 歴史の構築と構築主義の歴史性	門田 健一

## 第9号 2004年

**特集：「家族変動へのさまざまな接近」**

家族変容 歴史人口学からの接近	鬼頭 宏
家族をめぐる社会政策の展開と現局面	中川 清
夫婦間性別役割分業の構造と変動 家族変動論と家族構造論の接合にむけて	稲葉 昭英
出産行動からみた家族変動	竹内 治彦

**論文**

State Intervention and Women that Suffered from Domestic Violence Practices of Korea and Japan in Legislation for the Prevention of Domestic Violence	Aya Yokoi
--	-----------

**ビューポイント**

鶴木眞編著『コミュニケーションの政治学』	大石 裕
----------------------	------

**書評**

書評：川合隆男著『近代日本社会学の展開』	秋元 律郎
書評：鄭映惠著『＜民が世＞斉唱－アイデンティティ・国民国家・ジェンダー』	永田えり子

## 第10号 2005年

**特集：都市人類学の再構築**

都市人類学の再構築	鈴木 正崇
都市人のこころ スワヒリ都市ウジジと、ハウサ・フルベ都市ガウンデレの比較から マス・コミュニケーション過程に侵入するストリート文化	日野 舜也
アビジャン・レゲエはいかにして誕生したか？	鈴木 裕之
都市祭礼の空気は自由にする？ 青森ねぶた祭における騒動と統制	阿南 透
メキシコ市内旧先住民村落における「地元民」コミュニティ	禪野 美帆
鈴木榮太郎論 「境界」の位座からみた社会学原理の構築	阿久津昌三

**論文**

戦前期日本における国民国家と「郷土」	
--------------------	--

小田内通敏の人文地理研究論をめぐって

石井 清輝

「語り」からみる明治期の女子教育

『名媛の學生時代』読売新聞社刊行を手がかりに

小山 彰子

身体論の社会学的観察

斉藤日出夫

社会構築主義と「濃密な身体」 (原身体) 像へ (II)

松尾 信明

### 書評/リプライ

書評：吉澤夏子著『世界の儂さの社会学——シュッツからルーマンへ』

勁草書房、2002 年

徳安 彰

著者リプライ

吉澤 夏子

書評：藤田弘夫著『都市と文明の比較社会学』東京大学出版会、2003 年

中筋 直哉

著者リプライ

藤田 弘夫

書評：草柳千早著『「曖昧な生きづらさ」と社会—クレイム申し立ての社会学』

世界思想社、2004 年

小倉 康嗣

著者リプライ

草柳 千早